



ふらく人形

ふらく人形の名は幼児がつけてくれました。

ほんとその名の通りふらくとしてたわいのないものですが、それでも人形芝居の舞台の上での人形の頭の上に紐をつけて上からつるしながらマーチにあはせておどらせますと大層よろこびました。

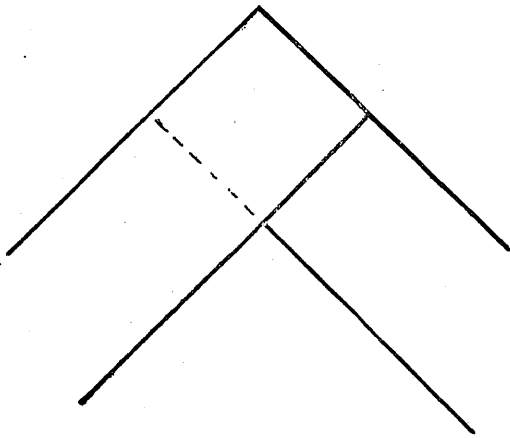
色紙 二色

畫用紙 少々

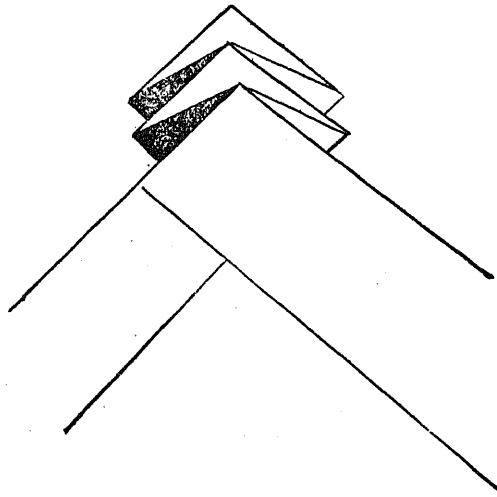
色紙は組紙を使ふのが便利ですがおどらせるのには少し紙がやはらかすぎますから畫用紙を細長く切つて色をつければよいと思ひます。先づ胴をつくります。

及川ふみ

組紙の五分のもの（幅五分長さ一尺三寸位）を



長さを半分にして色のちがふ二色を紙の端を直角になる様にかさねてだんくと上へ上へと重ねてた



とみます。

今度は前と同じ長さで幅だけは半分にして同じ様にたとみますこれが手足になるのですから四つ

こしらへます。

胴のたとみ始めとたとみ終りの四角いところを三角にたてその後側に手足をはりつけます。

顔は口繪にある様に畫用紙に帽子と一緒にかいて前の方へはりつけます。

(四十七頁ニツク)

向上させる道だとは考へられませんが。さういふ意味から見て私達にしてゐる學校のダンス等に省みるべき點はないものでせうか。學校と幼稚園とかいふ所ではことに自然によく接觸してゆかねばならぬと考へられるのですが。今迄の技巧から思ひ切つてはなれてしまふ必要はないものでせうか。